２０２３年（令和５年）　１０月２３日　月曜日

東奥日報　１１面　掲載

山田高、光星 完封ショー

第76回 秋季東北 高校野球 第５日

県勢 決勝で激突

第76回秋季東北地区高校野球大会は第5日の22日、秋田市のこまちスタジアムで準決勝2試合を行った。県勢の青森山田（第1代表）と八戸学院光星（第2代表）はいずれも完封勝ちし、決勝進出を果たした。青森山田は8年ぶり、八学光星は5年ぶりの決勝で、県勢対決は2015年以来8年ぶり3度目（いずれも両校対決）。この日の結果により、来春の選抜高校野球大会（センバツ）への県勢出場が確実となった。青森山田の主戦関は、一関学院（岩手第1）を12奪三振、2安打で完封。4番原田の3打点などで4－0で勝利した。学法石川（福島第3）と対戦した八学光星も主戦洗平が10三振を奪い1安打で完封。三上の中犠飛で挙げた1点を守り切った。最終日の23日は、午前10時からこまちスタジアムで決勝を実施。優勝校は11月の明治神宮大会に出場する。

（本田海輝、小橋徹）

【学法石川－八学光星】7回裏、八学光星1死一、三塁、三上が中犠飛を放ち1－0とする＝こまちスタジアム

洗平10K 投手戦制す

光星

▽準決勝（こまちスタジアム）

学法石川（福島）	000	000	000	0
八学光星	000	000	10×	1

（学）佐藤翼―大栄

（八）洗平―住本

▽三塁打　大栄（学）

▽暴投　佐藤翼（学）洗平（八）

【評】八学光星が1点を争う投手戦を制した。先発した主戦洗平は二回、先頭に三塁打を許してピンチを招いたが、後続を打ち取り無失点で切り抜けて以降は危なげない投球。三回以降は無安打に抑え、10奪三振で完封した。

打線は相手投手を攻めあぐねたものの、七回、山本、住本の連打で1死一、三塁の好機をつくると、三上が中堅深くへ犠飛を放って先制。4～6番の主軸3人で決勝点を挙げた。

「洗平のため」中軸奮起

試合前、八学光星の仲井監督が「どんな展開でも最後に1点多ければいい」と話した通りの試合となった。チームを5年ぶりの決勝に導いたのは、主戦洗平の快投、少ない好機をものにした中軸打線の勝負強さだ。

攻撃は初回、二回と先頭が出塁しながら、犠打を決めきれず後続が断たれる嫌な流れ。制球良く低めに球を集める相手左腕に手を焼き、三、四、六回には三者凡退を重ねたが、洗平がほぼ完璧に相手打線を抑え込み、主導権を渡さなかった。

迎えた七回。1死から4番山本がこの日2本目の安打で出塁すると住本も続き、1死一、三塁の絶好機をつくった。打席に立った三上は追い込まれたが、「決めるのは自分しかいない。気持ちで絶対に負けない」とバットを短く持ち、内角高めの直球を振り切った。打球は中堅深くまで伸びる犠飛となり、三走山本が余裕を持って生還。「洗平のために早く点を取りたかった」と三上。中軸3人で挙げた得点は、絶好調のエースには十分すぎる1点だった。

決勝は県大会決勝で苦杯をなめた青森山田と再び顔を合わせる。山本は「打の光星らしく打ち勝って借りを返す」と力強く宣言した。

（小橋徹）

7回表の1死三塁のピンチを無失点で切り抜け、岡本琉㊧とタッチを交わす洗平

ピンチでも粘り強く

○…ピンチを招いても粘り強い投球で得点を許さなかった八学光星の主戦洗平。99球での完封劇に「センバツに一歩近づきうれしい。厳しい試合を取れてよかった」と充実感を漂わせた。

二回、先頭打者にこの日唯一の安打となる三塁打を許したが切り抜けた後は波に乗った。低めのカーブでカウントを整え、140㌔超の直球とスライダーを決め球に凡打の山を築いた。七回も三塁に走者を背負ったがしのぎ、九回は3者連続三振で試合を締めた。

力投した左腕を「エースらしいピッチングをしてくれた」と褒めたたえた仲井監督。県大会で敗れた青森山田との決勝に向け、洗平は「2回は負けられない。地に足を着けて、やってきたことをやるだけ」と闘志をにじませた。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです